

平成 31 年度 東京都内湾水生生物調査 9 月成魚調査速報

●実施状況

令和元年 9 月 11 日に成魚調査を実施した。調査当日は中潮で、干潮が 9 時 30 分、満潮が 16 時 25 分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は 0.7~1.1m であり、全調査地点で赤潮状態が確認された。また、全調査地点で貧酸素状態は確認されなかった(千葉県水産総合研究センターの貧酸素水塊速報では、St.22、St.25 周辺にあたる、内湾北部の水深 10m~20m の海域では依然として貧酸素状態にある)。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	08:30-09:11		09:32-10:08		10:35-11:06		11:15-11:57	
水深(m)	25.3		11.8		13.5		7.6	
天候	曇		晴		晴		晴	
気温(℃)	27.2		28.4		30.2		30.6	
風向/ 風速(m/sec)	CALM		NE/2.4		CALM		CALM	
波浪(m)	0.2		0.1		0.0		0.1	
透明度(m)	1.1		0.7		1.1		0.9	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	26.9	23.2	27.3	23.7	28.5	23.5	27.7	25.0
塩分(ー)	21.6	32.6	15.4	31.4	23.6	31.7	20.9	30.0
DO(mg/L)	8.0	4.5	9.7	3.4	17.4	3.3	11.7	2.8
DO飽和度(%)	113.5	64.3	134.3	47.8	256.6	46.3	167.5	40.1
pH(ー)	8.3	8.0	8.3	7.9	8.7	7.9	8.3	7.9
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考	周辺の漂流物より腐敗臭あり。 上層やや濁りあり。		上層濁りあり。		上層濁りあり。 コノシロとみられる魚の死体が多数浮遊していた。		上層濁りあり。	

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上 1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

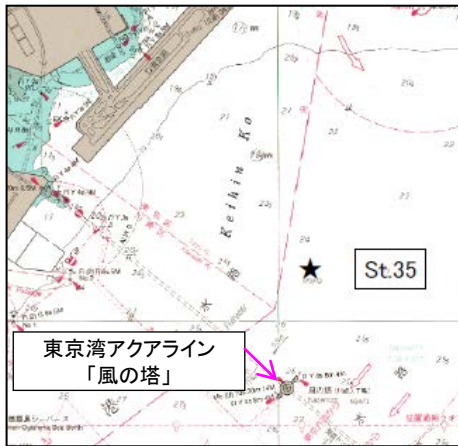
主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	シログチ(r)	なし	なし	マゴチ(r) イネゴチ(r) マハゼ(r)
魚類以外 (目立った種)	なし	アカガイ(r) ホンビノスガイ(r)	ホンビノスガイ(+) サルボウ(r)	ホンビノスガイ(+) アカガイ(r) サルボウ(r)
備考	タイラギやトリガイ、 ホンビノスガイの死殻 が採取された。	トリガイやチヨノハナ ガイの死殻が採取さ れた。	トリガイやカガミガイ 等の死殻が採取され た。	ホンビノスガイの死殻 が多く採取された。

注) 表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

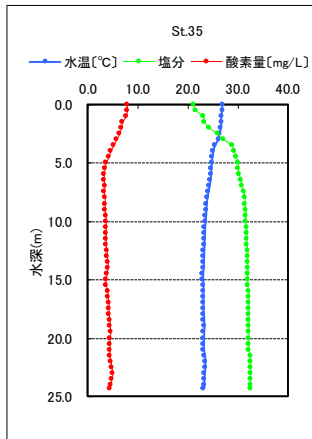
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



泥底から砂泥底に生息する。体色は光沢のある銀白色である。横浜市沖の水深 20~40m の砂泥底での底曳網調査では、年間を通して体長 10~20cm の個体が採集される。



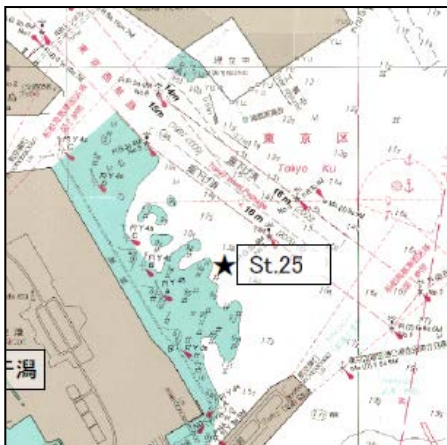
殻高 3cm 程の巻貝。水深 10~200m の砂泥底にすむ。ハナムシロやアラムシロガイ(稚魚調査でよく採取される)などのムシロガイ科の巻貝は、死んだ生物の肉を食べる(腐肉食生)。



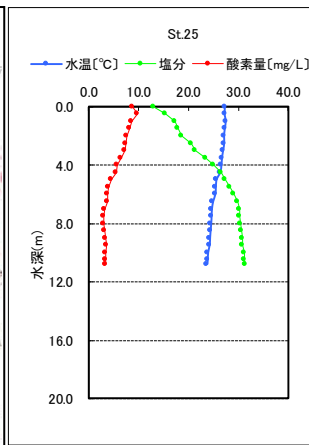
殻長 25cm を超える大型の二枚貝。尖った側を下にして海底に突き刺さったようにして生息している。東京湾の湾奥部では、春から秋にかけて発生する貧酸素水塊で死滅するため、殻長 10cm 程までしか成長できない。

調査地点：St.25

調査地点位置



水質状況



地点状況

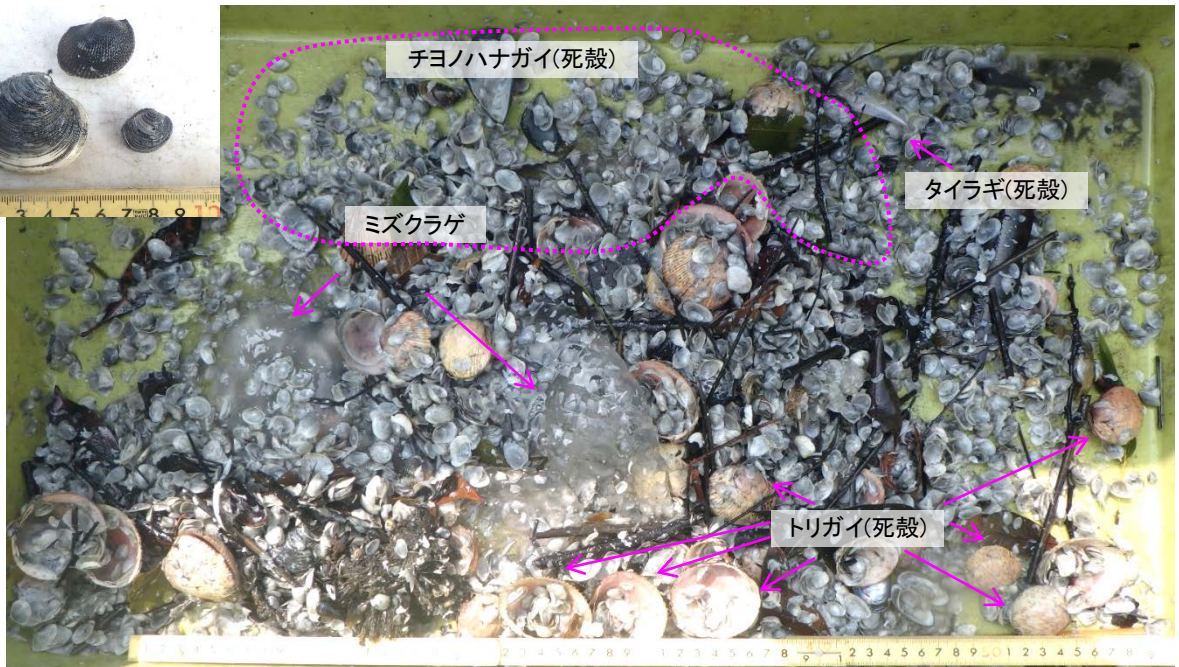


西側には東京国際空港が見える。

採取試料



貧酸素状態は確認されなかった(底層DO:3.4mg/L)。



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm

ホンビノスガイ



殻長 10cm を超える大型種。北米原産の外来種で、殻は本来白色だが、底泥中の硫化物の影響で黒っぽくなっている。今回は殻長 6cm 程の個体が採取された。

アカガイ



殻長 10cm を超える大型種。殻の表面には 42 本程の太い縦筋が並んでいる。内湾の潮下帯から水深 20m までの砂泥底に生息している。よく似た種に殻表面の筋の本数の違うサルボウ(32 本)がいる (St.22 参照)。

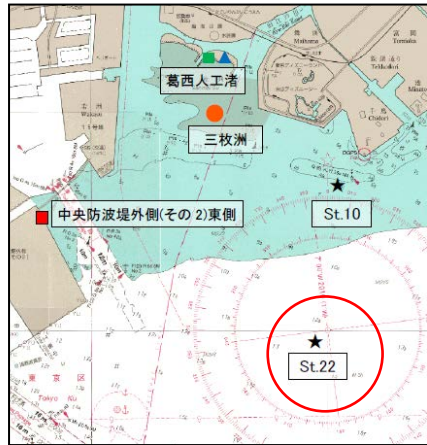
トリガイ(死殻)



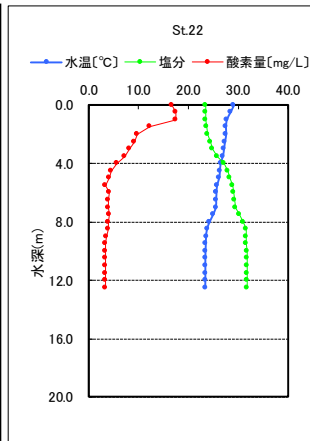
内湾の泥底に生息する。湾奥部では夏季の貧酸素水塊の発生によりほとんどが死亡する。貧酸素水塊解消後に出現した稚貝は、翌年春に 60mm に成長する。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料

貧酸素状態は確認されなかった(底層 DO:3.3mg/L)。



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm

サルボウ



アカガイ同様、内湾奥の干潟から水深 20m までの砂泥底に生息する。アカガイとよく似ているが、殻表面の筋の本数が 32 本とアカガイよりも少ないため、両種を区別できる。

コノシロ(死体)

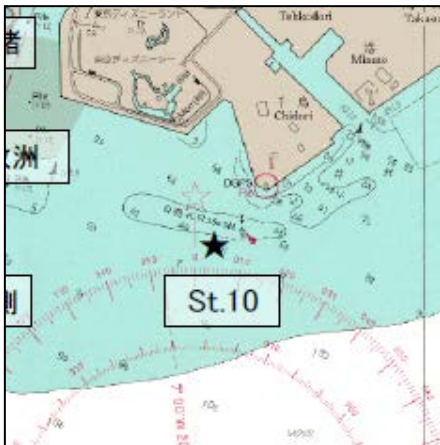


調査地点付近でコノシロの死体が多数確認された。左の写真は船上から撮影したもので、右の写真は、調査中に入網した個体である。死後数日は経過しており、貧酸素水塊の影響で死亡したと考えられる。

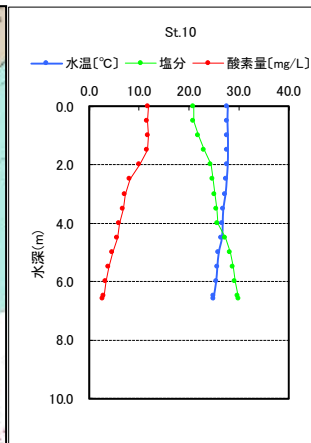


調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況



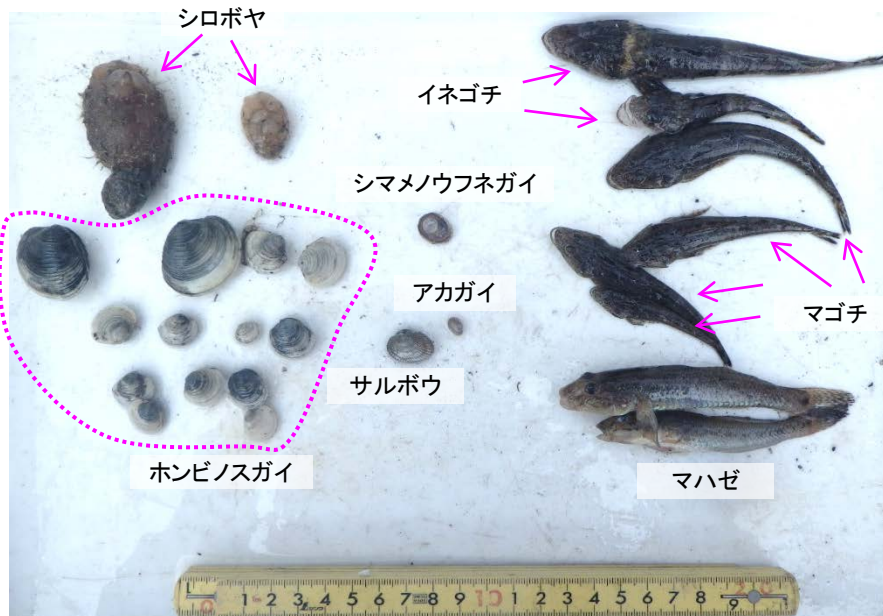
地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料

貧酸素状態は確認されなかった(底層DO:2.8mg/L)。



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息し、成長に伴い深所へと移動する。産卵期は 4～7 月。同時期に実施した稚魚調査では、体長 1～4cm 程の個体が採取された。



マゴチと似ているが、両眼の間隔が狭く、頭部に発達した棘があることで区別できる。砂底や砂泥底に生息する。産卵期は夏で、体長 30cm 程になると雌に性転換する。



東京湾を代表する魚の一つ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は、初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。